

ぽれぽれしター ぽれぽれしター

第34号
2018.01.01

2018年ご挨拶

理念

「人よりそう ひらかれた病院」

病院基本方針

※安心・安全ながん医療を提供します
※医療提携を進め、地域医療に貢献します
※豊かな人間性を持った医療人の育成に努めます

診療案内

内科 脳神経外科 整形外科
耳鼻咽喉科 婦人科 泌尿器科
放射線科 消化器科 緩和ケア科
乳腺外科 腫瘍外科 腫瘍内科
ペイン

【診療受付時間】

平日 8:30~16:00

土曜 8:30~12:00

【診療時間】

平日 9:00~16:00

土曜 9:00~12:00

【外来の休診日】

日曜・祝日・年末年始

【お見舞い時間】

12:00~20:00



平成 30 年、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

さて、身体活動量が多い人ほど、がん罹患リスクが低いことが疫学的に証明されています。ではなぜ運動が、がんのリスクを下げるのでしょうか。運動は活性酸素を発生させますので、急な激しい運動は体に悪いのですが、適度な運動の繰り返しは活性酸素を処理する能力（抗酸化力）を高め、免疫力を向上させ、がんのリスクを下げるのです。運動したくても腰が痛い、膝が痛いという人には、微量の放射線を浴びるという方法もあります。運動と同じように活性酸素が出ますので、高線量の放射線は体に悪いですが、低線量では抗酸化力、免疫力が強くなるのです。ラジウム温泉やラドン浴のほか、微量の放射線がでるマットや貼るシートもあります。

がんの予防・治療のために、抗酸化力、免疫力を高める工夫をしましょう。本年もどうぞよろしくお願い致します。



(病院長 中村 仁信)



(院長補佐 林 太郎)

2018年 新年明けましておめでとうございます。当院は平成 19 年 9 月に開院して、本年で 11 年目を迎えることが出来ました。これもひとえに皆様方のご指導、ご鞭撻の賜物と感謝申し上げます。さて、本年は 9 月にグループ病院である友協会総合病院の新築移転が控えております。現在順調に建築がすすんでおり、7 月には完成予定でございます。所在地は現在の総合病院から大阪大学医学部附属病院方面に進んだ JICA 跡地となっております。二次救急医療、急性期一般医療、療養型医療、地域包括医療と多機能の病院となっており、地域の皆様と病病、病診連携でも貢献できる病院を目指しております。彩都友協会病院のがん治療とあわせ、ますます質の高い医療を提供できるよう努力していく所存です。今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

明けましておめでとうございます。

旧年中、当院に賜りました数々のご厚情とご支援に対しまして、

職員一同心より御礼申し上げます。

当院はがん専門病院としてがんの再発や転移で苦しむ患者さまに放射線治療と化学療法そして緩和ケアの提供を中心に診療しております。

本年度も近隣の諸病院と連携し質の高い医療を提供できるように職員一丸となって努力していく所存です。今年も皆様にとって実り多い一年になることを願っております。



(医局長 杉浦 孝司)



2018年 新年明けましておめでとうございます。

平成19年がん対策基本法が施行され10年が経過しました。この基本法では「75歳未満のがんによる死亡率の20%減少」が目標となっていました。15%減少までにも至らなかったようです。がん検診の受診率や喫煙率減少の目標が達成できていないことが影響したとみられる事から、今後は、がんの予防については「平成34年度までに、成人喫煙者を12%、受動喫煙については、医療機関は0%、職場は平成32年までに受動喫煙の無い職場を実現する。」また、がんの早期発見については「がん検診の受診率を5年以内に50%を達成する。」といったことが継続して進められます。

高齢者のがん治療、緩和ケアでは「高齢者といえども、身体的、社会的な状態はひとそれぞれで、多様性をどう受けとめていくのかが大切である」といったことや「高齢であるために、治療、緩和、リハビリのバランスをうまくとる柔軟性が必要」ともいわれます。

高齢者の患者様が多い当院にとっては課題が満載ですが、患者・家族に寄り添った浸襲の少ない治療、切れ目の無い緩和ケアを目指し邁進してまいります。



(看護部長 東村昌代)



第3回

図書だより 緩和ケア科 若山 宏

「エンデュアランス号漂流」アルフレッド・ランシング

「シャクルトンの大漂流」ウィリアム・グリル

「空へ」J・クラカワー

「死のクレバス」J・シンプソン

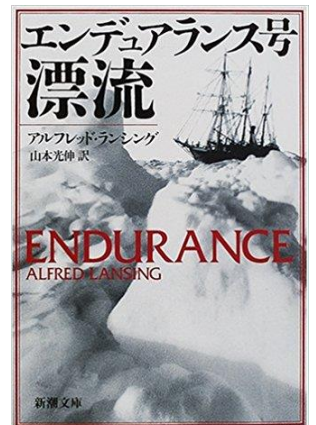
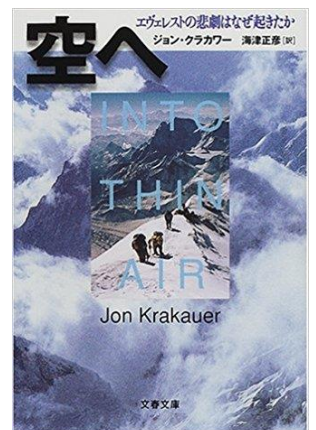
「エンデュアランス号 奇跡の生還」シャクルトン

「求む 男子。至難の旅。僅かな報酬。極寒。暗黒の長い日々。絶えざる危険。生還の保証なし。成功の暁には名誉と賞賛を得る。」

上は南極大陸横断探検隊のリーダー、シャクルトンがロンドンの新聞に出した隊員募集の求人広告と言われている。このわずか数行の広告に、五千人を越える志願者が殺到した。

遭難ノンフィクションが我々をひきつけてやまないのは、その極限状態の過酷さもさることながら、その時人間がどう考え、どう行動したかということが、状況を越えた普遍性をもって我々に語りかけてくるからだろう。それらの作品を読んでわかることは、条件さえととのえば人は誰でも英雄的行為ができるわけではなく、普段なにげなく判断し行動していることが極限状態でもあらわれるということだ。

なんでもないような平凡な人生をどう生きるかが、ある時、ある場所で浮き彫りにされるのである。



このニュースレターご希望の方は総合受付・地下受付にお越し下さい

編集後記： まだまだ寒い日が続きます、油断せずに体調管理に気をつけましょう。インフルエンザも流行しています、手洗い、うがい、マスク着用が大切です。(岩切)

発行者： 中村仁信(病院長) 〒567-0085 茨木市彩都あさぎ7丁目2番18号
編集長： 福西康修(放射) TEL072(641)6898 Fax072(641)6097
編集委員： 村井祐子(医師) 岩切昭夫(看護) 松澤圭介(看護) 常島啓司(情報)
志田原直子(医事課) 東阪真希(放射)



<http://www.saito-yukoukai-hp.jp/index.htm>

「ほれほれ」はホームページからダウンロードできます！